

## 【件名】

第5次中野区一般廃棄物処理基本計画（案）について

## 【要旨】

中野区一般廃棄物処理基本計画（素案）（以下「素案」という。）に関する意見交換会等の実施結果を踏まえ、第5次中野区一般廃棄物処理基本計画（案）（以下「案」という。）を作成したので、以下のとおり報告する。

## 1 素案に関する意見交換会等の実施結果について

## (1) 意見交換会

開催日時	会場	参加者数
11月17日(月)14時30分～	野方区民活動センター	1人
11月18日(火)19時～	南中野区民活動センター	2人
11月20日(木)18時30分～	オンライン (Teams)	2人
12月 6日(土)10時～	中野区役所	3人
合計		8人

(2) 区民から電子メール等で区に寄せられた意見  
件数：1件（内訳：電子メール1件）(3) 意見交換会等における主な意見の概要とそれに対する区の考え方  
別紙1のとおり

## 2 案について

(1) 素案から案への変更点  
なし(2) 第5次中野区一般廃棄物処理基本計画（案）構成  
第1章 基本計画の改定にあたって  
第2章 これまでの取組と成果  
第3章 ごみ処理基本計画  
第4章 生活排水処理基本計画

## 3 パブリック・コメント手続の実施について

案に関するパブリック・コメント手続について、1月29日から2月19日まで実施

する。区民への周知については、区報（1月11日号）及び中野区ホームページへ掲載するほか、区民活動センター等で資料を公表する。

#### 4 今後のスケジュール（予定）

令和8年	1月28日	閉会中区民委員会報告
	1月29日～2月19日	パブリック・コメント手続の実施
	3月	第5次中野区一般廃棄物処理基本計画策定

## 意見交換会等における主な意見の概要及びそれに対する区の考え方

No.	主な意見	区の考え方
基本理念と計画目標		
1	「ごみの減量については、生産段階からリサイクルの視点を持つことが重要になります。機会を捉え、国や業界団体に対し、リサイクルしやすい製品づくりや環境負荷の少ない生産工程の確立など拡大生産者責任を踏まえた製造工程の確立を訴えていくことも必要です。」とあるが、具体的な取組は示されていない。計画中に具体的な取組を示すべきと考える。	現在、他自治体と連携をとりながら、業界団体への働きかけも含め、国や都に要望をしているところである。このような連携の中で、効果的な方法やタイミングを捉えて行うべきと考えており、計画の中で、重点施策の具体的な取組を示すのは困難である。
2	仮に熱回収を行うとしても焼却は効率が悪く、温室効果ガスの排出もある。燃やすごみはある程度存在するにしても、出来る限り焼却・熱回収を減らす事を目指すべき。	区の考えも同様である。発生抑制を第一に、排出する場合も、資源化することで焼却量を減らすことを目指している。
3	基本理念を達成する時期が決まっていない。いつまでに基本理念を達成するかの目標を立てて、それを実現できるように本計画の目標を設定すべき。	基本理念として掲げる「ごみゼロ都市」の達成年次を計画に掲げることは本来望ましいと考える。ただし、中間処理や最終処分を受け持つ実施主体の計画との整合を図ることはもちろん、今後の社会全体の生産や消費のあり方の動向等からも影響も受けるなど複雑な要素がある。よって、本計画では基本理念の実現に向けた10年間の計画を定め、5年後と10年後の目標値を設定しているものである。
基本方針1 発生抑制、再使用の意識醸成		
4	外国人のごみ出しマナーが悪いと感じる。中野区に移住する外国人は、ごみ分別の講習を受けることを条件にしてもいいのではないかと。	ごみの分別方法については、日本人・外国人問わずさらなる啓発をしていく必要がある。文化の違いで分からないことがあるかもしれないが、正しい分別方法が伝わるよう工夫していく。
5	生ごみは庭に埋めているので、ごみがほとんど出ない。生ごみを庭に埋めることをもっと紹介してほしい。	コンポスト化等による生ごみの減量は重要であり、普及に努めていきたいと考えている。一方で、庭に埋めることができない家庭も多いため、「水切り」などによる減量方法についても周知していく。

6	YouTube で様々なことを勉強している。ごみについても YouTube 動画を作ってほしい。	区の公式 Youtube チャンネルでは、ショート動画を掲載し、資源とごみの分け方や出し方を説明している。今後も、ショート動画の充実も含め効果的なツールを用いた普及啓発に努めていく。
基本方針2 分別の徹底と効率的な資源回収		
7	プラスチックの資源化のためにかなり多くの費用が増えている。もっと別のところにお金をかけるべきではないか。	清掃工場の経費抑制や、埋立処分場の延命化のためにも、できる限り資源化を進めていかなければならない。区としては今後もプラスチックの資源化を進めていく方針である。
8	ごみの有料化を検討しているとのことだが、やめていただきたい。	23区が一体として取り組むごみ減量施策の一つとして、家庭ごみ有料化についても検討しているところである。実施する場合は区民に新たな負担をお願いすることになるため、効果や影響を含め、他区とともに慎重に議論していきたい。
9	資源として分別されたものの中にレアアースがどれくらい回収できているか、わかりやすく実績を明記してほしい。	区は、収集した「陶器・ガラス・金属ごみ」や、拠点回収した小型家電からも希少金属を選別・資源化しており、計画（素案）に資源回収品目ごとの実績を掲載している。希少金属の回収量自体が少なく、その中でも「レアアース」に分類される物質は微量であり、計画の中で物質ごとの個別量を示すことは考えていないが、今後も貴重な資源の有効活用をすすめたい。
10	陶器・ガラス・金属ごみの「全量資源化」という表現は、正しくない。全量を再資源化のサイクルには投入したけれども、資源化はできなかったものもあるという事が分かるような表現にすべき。	「全量資源化」は、収集した「陶器・ガラス・金属ごみ」を余すことなく資源化施設に持ち込み、全量を資源化対象としていることを示した表現である。現状、どうしても資源化できない残渣物が出てしまう実態があるが、今後、それも含めた資源化を検討しているところである。
11	「8 新たな資源回収の調査 衣装ケースや羽毛布団の資源化について情報収集を行った。」とあるが、収集した情報を基にどう取り組んでいくのか。今後の取組を書くべき。	これまで収集した情報をもとに課題を整理し、これらの品目も含めた廃棄物の資源化に向け積極的に推進していきたいと考えているが、取組プロセスまで計画に書き込むことは困難であると考えている。

※区分整理の関係から、提出された意見の分割や同趣旨の意見等の統合を行っている場合がある。また、実態を確認する質問や特定の集積所など個別性の高い意見は除いている。